

(2003 年度日本語教育学会第4回研究集会実践研究発表会)

教師と学習者の協働によるスピーチとディスカッションの授業
～活性化を目指した授業のプログラム化と教師のスキルの意識化～

吉本恵子・深澤道子・河北祐子

(2003.8.2)

スピーチとディスカッションの授業を「日本語を学ぶだけの場」から「日本語を用いて互いに理解を深め合う場」にできないかと考えた本研究グループは、安心できる環境の必要性を考慮し、授業のプログラム化と教師のスキルの意識化による授業改善を試みた。

授業のプログラム化とは、構成的グループエンカウンターから応用したインストラクション・エクササイズ・シェアリングによる授業の構成と、それを強化するためのクラスルールの設定および学習者自身によるテーマの設定を行うことである。授業を3つの部分で構成し、そこでの教師と学習者の役割を明確化し共有した。教師のスキルの意識化とは、カウンセリング理論から応用した「受容」「支持」「繰り返し」「質問」「明確化」のスキルを意識して用いることである。教師は「受容」と「支持」を用いて学習者の発話を積極的に受け入れ支持した。また、他の学習者がよく聞き取れなかったり理解できなかったらと判断した発話の場合には「繰り返し」「質問」「明確化」を用いて言語面で支援した。

上記の実践を、ビデオ記録・学習者アンケート・個人インタビューなどから考察した結果、学習者が他者の発話をよく聞くようになり、参加場面が増加したり多様化したりしたことが認められた。さらに、教師が学習者との協働を実感できるようになり、授業を円滑に進められるようになった。このような教師と学習者の変化は、実践の前に抱えていた課題の解決に大きく寄与し、レベル・教師・授業内容の違いに関わらずスピーチとディスカッション授業を活性化に導いたのではないかと考える。

(カイ日本語スクール)